



御幸が原小・学校だより

考える葦

第 10 号

令和5年2月28日発行

発行者 廻谷 敦士

朝晩の冷え込みはまだまだ厳しいものの、「三寒四温」の言葉通り、数日おきに寒い日と暖かい日が繰り返され、日中の日差しの暖かさにも春の足音を感じる季節となってきました。令和4年度も、残すところあと1か月。学校では、子供たちが、1年間のまとめに取り組んでいます。特に6年生は、卒業までのカウントダウンも始まり、いよいよ卒業式の練習もスタートします。子供たちが自信と希望をもって進級・進学ができるよう、1日1日を大切に、子供たちの1年間の頑張りと成長を、認め励ましていきたいと思っています。

急激な拡大を見せた新型コロナウイルス感染症第8波も収束の兆しがみえてきました。18日（土）には、3年ぶりの地域行事となる「バルーンフェスタ in みはら」が、御幸ヶ原地区連合自治会・まちづくり協議会主催で開催され、子供たちも幻想的なひと時を過ごすことができました。

保護者の皆様には、授業参観やオンラインでの学級懇談会など学校教育活動へのご協力をいただき、ありがとうございました。今後も、感染症対策を講じながらの教育活動が続きますが、引き続きご理解、ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

バルーンフェスタ in みはら



2月の校舎



6年生 卒業制作 ふくべ作り

6日（月）、6年生が卒業制作「ふくべ作り」に挑戦しました。「ふくべ細工」は栃木県の伝統工芸品の一つです。当日は、「黄ぶな」や「ふくべ細工」を制作している「ふくべ洞」の方に講師としてご来校いただき、ご指導していただきました。子供たちは、講師の方から説明を聞いた後、思い思いに作品作りに取り組み、世界に一つだけのすばらしい作品を作り上げることができました。この活動を通して、卒業に向けての意識がさらに高まってきました。



6年生を送る会

24日(金)、5年生の実行委員が中心となって準備を進めてきた「6年生を送る会」が開催されました。今年度は、1年間ふれあい班で共に活動してきた子供たちが共に過ごせる心温まる会にしたいという実行委員の思いから、最大限に工夫を凝らして、オンラインと対面での活動を組み合わせた形で実施され、6年生に関するクイズやふれあい班ごとのゲームなど楽しい時間を過ごすことができました。ふれあい班の下級生が書いたメッセージカードを受け取り、感謝の気持ちが込められた一つ一つのメッセージを見つめる6年生のやさしい表情がとても印象的でした。大きな声は出せませんでしたが、会の最後の「変わらないもの」の合唱もとても感動的でした。実行委員・在校生の思いのこもったとてもすばらしい送る会になりました。



各学年の活動

新型コロナウイルス感染症第8波も収束の兆しが見え始め、3年間制限されていた各学年の活動も再開できるようになってきました。ここでは、今年度再開できた、1年生の釜井台幼稚園との交流と3年生の火起こし・餅焼き体験の様子を紹介します。学校だよりで紹介できなかった様々な教育活動も紹介していますので、詳しくは下記QRコードからホームページをご覧ください。皆様のアクセスをお待ちしております。

1年生 釜井台幼稚園との交流



3年生 火起こし・餅焼き体験



みはらの特色 お箸使い方チェック&練習会

御幸が原小の特色である「スーパーみはらっ子」の取組の一環で「お箸の使い方練習会」が行われました。学校栄養士の山下先生と給食担当の荒川先生、健康委員会の子供たちがお箸の使い方のチェック&練習会を開催しました。使い方チェックに合格した子供たち、練習会に参加した子供たちは、「チョップスティックマッチョマン」カードをゲットすることができ、とてもうれしそうでした。



心を揺さぶる ～1年間の振り返り～

1年の締めくくりとなる3月は、子供たちが大きく成長できるチャンスです。ぜひ、お子様と一緒にできるようになったことに目を向け、1年を振り返ってみてください。自分はこんなことができるようになったんだ・・・と自覚すること、そしてそれを一番身近にいる保護者の方にほめてもらうことで高められた自己肯定感や自信が、将来の自立につながります。

